



続けたことがやがて形になる 校長 赤松 弘一

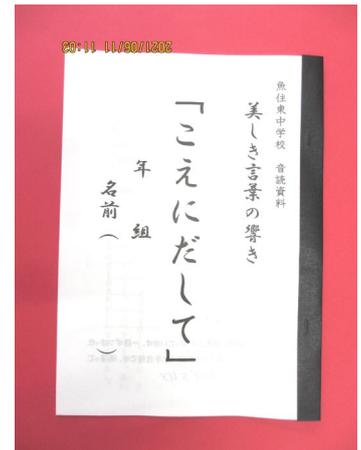


明石市中学校総体が終わりました。しっかり力を出し尽くして、感動を得ることができたでしょうか。次の大会に向けて再び練習を始めた人、思った結果が出せず悔しかった人。これをもって部活動にピリオドを打つ人など様々です。しかし、人生においてはいつも思い通りになるということはありません。むしろ挫折や後悔がついて回るのが普通です。そういう経験を重ねながら自分を知り、自分を生かす道を自ら探していくのではないのでしょうか。

勉強にしても部活動にしても、今努力していることが本当に有効なのか？本当に自分は成長しているのか？そんな疑問がわいてきます。昨日と比べても自分は何も変わっていないと感じます。しんどさに負けて努力をやめてしまおうと思うこともありますが、成長の手ごたえを感じるには、もっと長い時間努力を続けることが必要なのです。しかし苦しいだけでは努力を長く続けることは困難です。そこに楽しみや喜びが伴うことが大切です。勉強や部活動にも楽しみを見つけることが長く続けるための秘訣だと思います。

今日は3年生の皆さんに「こえにだして」のテキストを配りました。これは私の前任校が15年以上前から続けている伝統の音読暗唱の取り組みを中学生向きに英語暗唱を取り入れて作成したものです。部活動を引退し、少しゆとりができたなら取り組んでみてほしいと思います。英語と日本語の詩や短文を音読することで、言葉の美しい響きを感じると共に、暗唱できた時の達成感を味わってください。すべて合格したら、完全制覇の認定書を贈ります。

例えば、このテキストにある「枕草子」は今から千年以上昔の平安中期に、皇后の付き人である清少納言が宮廷の日常生活や四季の移ろいや人間の営みについて思いのままに書き連ねた随想（エッセイ）です。これを読むと千年前の人と会話しているかのような不思議な気持ちになると共に、人が思うことや感じることは、千年たってもそんなに変わらないものなのだと気付かされます。これほど永く消えることなく伝わってきたのは、やはり多くの人々の感性に響き共感を得たためでしょう。これらの暗唱を通して皆さんの興味や知識の引き出しが少しでも広がれば、そして続けて暗唱を制覇することで自分に自信が持てたならうれしく思います。



私事ですが、夏休み明けの8月27日（金）から29日（日）まで、理科通信「播磨探検」の原画展を開催します。今回の原画展は前任校の卒業生で、現在中学校1年生の生徒のイラストと共に「二人展」として開催します。詳しくは裏面にありますので、時間があれば来場してください。校長室前に掲示し、学校HP校長室からのページにもUPしております理科通信「播磨探検」は、307号（通算357号）を数えました。第1号を描いた30年前にはこんなに続くとは思っていませんでしたが、今は私のライフワークになっています。続けることでひとつの形ができたかなと感じています。音読暗唱も同じです。まずは挑戦する気持ちで、小さな一歩から始めてみませんか。